

令和4年度第1回新潟市認知症対策地域連携推進会議 会議録

開催日時：令和4年11月8日（火）午後6時30分～午後8時00分

会場：新潟市役所本館西1階 110会議室（ZOOMミーティングによるオンライン）

出席委員：阿部委員 荒井委員 荒木委員 池内委員 近委員 佐野委員 田中委員
等々力委員 成瀬委員

欠席委員：久保委員 渡邊委員

事務局出席者：地域包括ケア推進課 高橋課長 古田係長 小柳係長 渡邊主査 來田主査
安達認知症地域支援推進員
小川認知症地域支援推進員

関係課出席者：保健衛生部 清水課長補佐

こころの健康センター	吉田主査
地域医療推進課	関根係長
障がい福祉課	上村課長補佐
高齢者支援課	岡村課長補佐
介護保険課	川上課長補佐
保険年金課	健康支援推進室 山田室長
北区健康福祉課	高齢介護担当 熊倉主査
中央区健康福祉課	高齢介護担当 柏倉係長、平岩主査
江南区健康福祉課	高齢介護担当 片山係長
秋葉区健康福祉課	高齢介護担当 今井係長
南区健康福祉課	高齢介護担当 小野寺主査
西区健康福祉課	高齢介護担当 梨本係長
	地域保健福祉担当 木場係長、力石主査

傍聴者：1名

（司 会）

定刻となりましたので、令和4年度第1回新潟市認知症対策地域連携推進会議を始めさせていただきます。

会議冒頭の進行役を務めさせていただきます地域包括ケア推進課の古田です。よろしくお願

いたします。

本日の会議につきましても、前回と同様にオンラインで開催させていただいております。委員の皆様におかれましては、会議開催中、ご発言いただく時以外はマイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。また、ご発言の際には、お手数ですが画面右下にありますリアクションのアイコンをクリックしていただき、更に手を挙げるのアイコンをクリックして発言の意志をお示しくください。それを見てお声がけいたしますので、指名されましたらお手元でマイクのミュートを解除した後、ご発言いただきますようお願いいたします。ご発言が終わりましたら、再びマイクをミュートにさせていただくようお願いいたします。

なお、本日は久保委員と渡邊委員からご都合により欠席されるとのご連絡をいただいております。また田中委員が入ってきていないようですが、入り次第加わっていただこうと思っております。また、本日の会議については会議録作成のため、録音させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

次に、本日使用します会議資料の確認をお願いいたします。

事前配布資料として委員の皆様へ郵送したものが、次第、委員の名簿、資料1 認知症地域支援コーディネーター事業報告、資料2 新潟市地域包括ケア計画における認知症施策の実施状況、資料3 新潟市認知症初期集中支援チーム「おれんじサポート」の実施状況について、最後に別紙1 新聞記事の写しとなっております。以上6種類です。お手元にお揃いになっていることをご確認ください。よろしいでしょうか。

それでは次第に沿って進行させていただきます。まず開会にあたりまして、地域包括ケア推進課 課長の高橋よりご挨拶させていただきます。

(地域包括ケア推進課長)

皆さんこんばんは。地域包括ケア推進課の高橋です。委員の皆さまからは、日頃より、本市の認知症施策にご協力いただきまして感謝を申し上げます。また、本日は夜間の会議にもかかわらず、ご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

このところの新型コロナウイルスについては、一時、落ち着いておりましたけれども、ここへきてまた感染者も増えている状況でございます。本日の会議につきましてもリモート開催ということでご不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

本日の会議についてですが、次第でございますように、昨年度よりスタートいたしました認知症地域支援コーディネーター配置事業について、みどり病院の井上さんの方から活動内容についてご報告いただき、それを基に、今後の地域での見守り体制の在り方について、皆様方から貴重な意見をいただければと思っております。

その後、最後にこちらから、昨年度の認知症施策の実績報告を簡単にさせていただきますと終

了とさせていただきたいと思います。限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

議事に入る前に、委員の交代がありましたのでご報告いたします。新潟県認知症高齢者グループホーム協議会推薦であった中臣智美委員が令和4年3月末で異動されました。それに伴い、後任として渡邊典子委員が選任されましたので、ご報告いたします。なお、渡邊委員は本日、欠席とのご連絡をいただいております。

続きまして、次第の2、議事に入らせていただきます。ここからは座長の池内委員にお願いしたいと思います。池内委員、よろしくお願いいたします。

(座 長)

はい、池内の方で座長を務めさせていただきます。本日はご参加いただきまして、皆様ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速、議事(1)、認知症地域支援コーディネーター配置事業について、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局：小柳)

事務局の地域包括ケア推進課の小柳です。いつもお世話になっております。それではよろしくお願いいたします。

私の方から、少し簡単に説明させていただきますが、今ほど課長の方からも説明もありましたとおり、この事業につきましては、昨年5月より受託先のみどり病院に認知症地域支援コーディネーターの方を配置しましてモデル事業としてスタートいたしました。中央区のしもまちエリアにおきまして、チームオレンジの取組みを進めてきたところですが、昨年10月にチームを結成し、令和4年度4月には認知症カフェを開催するなど活動を進めてきております。途中、新型コロナウイルスの影響によって、地域での活動などがなかなか予定どおりに進まなかったという時期もありましたが、9月21日にはチームオレンジの取組の一つとして、中央区においては初めてになりますが、徘徊模擬訓練が行われたところです。

昨年度のこの会議においても、コーディネーターの井上さんから進捗状況についてお話しいただいたところですが、本日は、その後の取組みについて説明いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。私の方からは以上になります。

(座 長)

はい、ありがとうございます。

それでは引き続き、みどり病院の井上さんから資料1にもとづいてご説明をお願いできますでしょうか。

(井上さん)

はい、みどり病院認知症疾患医療センターで認知症地域支援コーディネーターをしております井上と申します。本日は、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。資料を画面共有をさせていただきます。

では、前回発表させていただいたその後の進捗状況の方をお話させていただきます。

新潟市から委託を受けている主な事業内容は表示されているとおり5つとなっており、昨年は③の地域における認知症サポーターの養成と⑤のチームオレンジの立ち上げについて注力して参りましたけれども、今年度はそれらに加えて、②の地域資源の開発支援も行いました。

今年度は5つの目標を立てました。これから、ひとつずつご説明させていただきます。

まず、①のチームオレンジ in しもまちの継続です。チームオレンジ in しもまちは、第3水曜日の午前、午後共に活動しています。主な活動内容は3つです。一つ目の認知症カフェでは、常設プログラムとしてタッチセラピーや高齢者向けのメイクを無料で取り入れたり、カフェ内で毎回ミニ講座を取り入れるなどし、全員で意見を出し合って改善に取り組んでいます。最近では認知症のご本人、ご家族にお越しいただくための工夫を練っているところです。

二つ目の地域づくりセミナーも今年1月から開始し、毎回20名を超える方が受講されています。今月は認知症の人と家族の会より2名の方にご対談いただくことになっておりますし、今後、等々力さんからもご講義いただく予定になっております。

三つ目の徘徊模擬訓練です。約1年間の準備期間をかけて9月28日に入船地区で徘徊模擬訓練を実施しました。実際に行ってみると、本人役も捜索隊の方も気づくことがとても多く、勉強になったという感想と、こうすればよかったのになどといった反省の声も多く聞かれました。本人役の人も捜索隊の人も、どちらもとても緊張したと言っていましたし、事前に行った声かけ訓練で学んだことが吹っ飛んでしまって、名乗ることを忘れてしまったとか、腕を掴んでしまったとか、言葉を紡げなかったなどの感想が聞かれました。今後は、今回の訓練を基にマニュアルを作っていく予定ですが、来年度は、この地区で他の団体の方から徘徊模擬訓練をしたいとの手が挙っておりますし、お隣の地区であります新潟地区コミ協さんからも徘徊模擬訓練を実施したいとお声もいただいております。次回は、小中学生などの若年層を交えた徘徊模擬訓練にしていきたいと思っております。

今回の徘徊模擬訓練ですが、予算がなかったので自治協さんの「未来への種まきプロジェクト」応募し、10万円の補助金をいただきました。補助金の使い道は、のぼり旗の作成、当日の参加者への飲み物代、ビブスのクリーニング代、打ち合わせの場所代、配布資料の印刷代、マニュアルの冊子作成代などになります。ちなみに、ビブスは東区からお借りしました。

ここからは動画を視聴いただきます。9月28日にはBSNとNHKさんから取材に来ていただき

まして、当日夕方のニュースとして配信していただきました。これから見ていただく映像は、その映像ではなく、内々で撮った動画になります。ですので、徘徊模擬訓練の裏側が見えるといった感じになるのですが、そのために撮ったわけではないので、皆さんマイクを付けて話してはおりません。非常に音声聞き取りにくくなっておりますので、解説を挟みますのでお許しください。では始めます。

～動画視聴～

今、画面の左側にいらっしゃるオレンジ色のビブスを着ている人が当事者役の人になります。右側に立っておられる方が、ご当事者役の付き添い役になっておりまして、付き添い役の人からは、当事者が徘徊模擬訓練に集中しすぎて危険なことがないようにということで、必ず当事者役の方に見守り役の付き添いの方1人を配置しております。

(この画像は) 次のグループさんが来ましたよ、と声をかけています。画面奥に見えるのがテレビ局の取材になります。5人1グループになって捜索隊がやってきております。ちょっとカメラマンが近くに寄ります。このグループには髪の長い女性が聞く役となっております。1対1でお話を聞くようにされています。ちょっと聞き取りにくいんですが、「よく来られるんですか」と話しかけています。「散歩日和ですね」という言葉で、視線を合わせながら今住んでいる町内を聞き出しております。お名前を伺ってまして、「今、探している方がいましたよ」ということを伝えていきます。「探している方に連絡してもいいですか」と本人から許可を得、このグループでは声をかける役と連絡する役を分けて、声かけ役の方は当事者の隣にしているようにしていただきます。ここで、徘徊模擬訓練終了ということで、皆さんホッとした表情になっています。緊張が解けてとても和やかになりました。

この映っていたご当事者役の方なんですけれども、コミ協の方になります。演技をととても勉強したとおっしゃっていました。

～動画視聴終了～

反省会で出た皆さんの意見をちょっと書き出してみました。参加者からの意見としては、1番上から、自治会をどう巻き込むのかノウハウをマニュアルに載せて欲しいと包括さんから意見が出ました。あとは、自分の声かけ方が正しかったのか分からないというのが声かけ役をした方からあがっていました。声かけ訓練が終わった後に、残念ながらご当事者からこういうのがよかったよ、悪かったよという意見も出なかったですし、相手からもどうしたらよかったですかというやり取りがなかったんですよね。緊張感が解けた喜びが大きかったということで。反省点として、その場でそういったころのやり取りをした方がよかったなという意見が出ました。あとは、声かけ訓練当日だけではなくて、チームオレンジで度々このような声かけ訓練を行っていく

のがいいんじゃないかというような意見ですとか、今回の認知症の方として当事者役の人を5名をお願いしたんですけども、それぞれにきっと特徴のある方になるだろうから、身体的、性格的な特徴をもう少し詳細に決めておいた方がよかったのではないかという意見もありました。それ以外では、捜索隊が出る前に、お一人お一人の身体的特徴などをお伝えしていたんですけども、ビブスを着てしまうとそういった事前情報がいらなくなってしまうのではという意見などもありました。

次にそこから見えてきた課題です。若年層が参加していないという意見も多く見られ、その通りだねということで、次回への課題となりました。あとは、今回予算が無かったんですけども、たまたま今回は自治協さんの種まきプロジェクトから10万円いただきましたけれども、どのように予算を取っていくのかというのが非常に重要な課題であるかなと思います。また今回、自治会さんの方を中心としたメンバーで、当初は50人くらいを予定していたんですけども、非常に人数が多くなってしましまして、70人を超えました。途中から、応募もストップしたくらいなんですけども、自治会さんを巻き込んでいくには、やはり地域包括支援センターや行政さんなどの協力も必須になってきますし、ここまで来るのには相当なエネルギー、体力がいりますので、皆さんからの協体制というのも必須だと感じています。

あとは、何を主な目的とする訓練なのか明確にしないと参加者に伝わらない、声をかける訓練なのか、それとも捜索するための訓練なのか等、ちょっと目的が曖昧になってしまいがちながら取り組むというようになってしまったので、そういった説明も事前にしっかりすればよかったと思います。徘徊模擬訓練については以上になります。

今年度の目標に戻ります。2つ目のステップアップ研修の継続です。昨日も実は行われていまして、今年度から疾患医療センターの力を借りて認知症ステップアップの研修を行っています。20名の応募がありまして、皆さん熱心に講義の方を聴講していらっしゃいました。昨日行われたのですが、参加者の中に神経内科医になりたいんですという学生さんがいらっしゃいました。

3つ目、若年層も含めた認知症サポーターの養成講座についてです。私の方で、今年度、山潟小学校で実施してきました。今月も女池小学校で認知症サポーター養成講座実施予定になっていますし、当院での認知症サポーター養成講座についても継続しております。

4つ目、認知症カフェの立ち上げ支援になります。より多くの方に認知症カフェの存在を知ってもらって運営して下さる人を募ろうと、8月22日に認知症カフェ立ち上げ支援講座を行いました。13名の方からご参加いただきまして、後ほどですが、参加された西区と東区の方からご連絡をいただきまして、仲間に講座内容を伝えて前向きに検討していると連絡をいただきました。こういった認知症カフェの運営などでも、サポーターさんの活躍場所が広がるといいなと思って

おります。

5番目の企業とのつながりになります。少しずつではありますが進んでおります。先ほどお話しした当院のステップアップ研修を受講して下さった岡三にいがた証券の重役様より、旧新潟支店を無料解放して下さると、タイアップのご提案をいただきました。そこで、来年から認知症カフェを開催する予定で今準備を進めています。まずは半年かけてセミナーを開いて、認知症について運営側の方々に認知症について学んでいただき、来年度からオープンに向かって具体的に動いていきます。そのセミナーのチラシが資料の左側になります。右側の方なんですけども、10月7日に長岡で行われた認知症フォーラムにて、岡三にいがた証券さんが発表した資料の1ページとなっております。

その他の活動になりますが、新潟市各区のキャラバンメイト連絡会の情報共有をすることでつながりを深めていきたい、お互いに切磋琢磨していけるような関係になりたいと思い、新潟市キャラバンメイト連絡会交流会を11月18日に開催を予定しております。キャラバンメイト連絡会とは、会社のような組織ではなくて、有志の集まりなので何をどこまでやるのかというジレンマに陥りますが、各区の連絡会の定例会や交流会に唯一参加している身として、各区連絡会の連携や結びつきけられるような役割を担えたらと思っています。

次年度は、今年度行ってきた活動を更に来年度深めていきたいと思っています。①認知症カフェから本人ミーティングの場へ展開していきたいと思っています。②若年層や企業含めた地域への認知症の普及活動、それから③の認知症サポーター養成講座やサポーターの活動提供などに取り組んでいきたいと思っています。

つまりは、これを図にしてみたんですけど、この緑色の円ですが、偏見・差別がまだ残っているであろう地域に対して認知症の普及活動を行い、この2重目の円、認知症サポーター養成講座の受講者を促進し、三重目の円ですが、その後の活躍のためにステップアップ研修などを開催し、知識を深くつけていってもらい、活動を行う人の支援を行うという、市民への普及活動、サポーター養成講座も実施する、ステップアップ研修も実施もする。更にこの人たちの活動促進も全部、全てに関わっていくという、一貫して担っていくイメージで来年度は取り組んでいこうと思っています。私の発表は以上になります。ありがとうございました。

(座長)

井上さん、ありがとうございました。この1年間の活動をご紹介いただきました。5つ目標を設定いただきまして、全ての項目で進捗をされておられる様子がとてもよく分かりました。大変、重要な活動をしているなと思います。

この後にですね、地域の見守りについて少し深堀をしていくんですが、その前にそれ以外の今日のご紹介いただいた活動について何かコメントとかご質問とかいかがでしょうか。

(委員)

意見なし。

(座長)

大丈夫でしょうか。はい、それでは高齢者の地域における見守り体制の構築についてということで、ちょうど徘徊模擬訓練の紹介をいただきましたが、本日、別紙1のところに新聞の記事で掲載されています内容を簡単に紹介させていただきます。

認知症の高齢者を地域一帯で保護する模擬訓練。県内で広がるということで、今日ご紹介いただきました中央区入船地区での模擬訓練の紹介の記事になります。住民約70人が参加して、グループに分かれて行方不明の方を捜索したところになります。実際にですね、行方不明というのは毎日のように起きているところで、そういう方をいかに早くに見つけ出して、見つけてお家にお戻しするかというのは、なかなか苦労が多いところですけども、こういう訓練をすることによって、よりイメージがわかりやすい、対応ができるんじゃないかというところが書かれております。全国ではですね、行方不明事案というのが2021年17,636人、本県が217人ということで、多くの方が行方不明になられて届け出をされて見つかるまでご苦労されることも少なくないというところになります。こうした中で地域ぐるみで取り組みをしようというところで、大牟田市なんかはこういうことを先駆けてやっておられて、安心して徘徊できる町というようなキャッチフレーズで活動されているところはお存知かもしれません。本県でも21年度には新潟市、新発田市など10の市町村で模擬訓練が実施されているというところがございます。こういうことを踏まえて、地域で高齢者の方を見守る体制。模擬訓練も含めて少し今日議論を深めていきたいなと思っております。

まず最初になりますが、模擬訓練に参加いただきました成瀬先生、実際にご参加された感想、あるいはご意見ありましたらよろしく願いいたします。

(成瀬委員)

私は最初のところだけちょっと参加させていただいたわけですけども、皆さん一生懸命で、やること自体もとても素晴らしいんですけども、それまでの過程ですね、参加する方が段々増えていって、その人たち同士がかなり連携を取るようになって。それで、町内会もそうですし、コミ協なんかもそうだと思うんですけどね。町内会長さんとのつながりとか、町内会の人と包括とのつながりとか、そういう連携がどんどん出来てくるので、そういう意味では非常に有効なものではないかと思いました。ですから、やること自体ものすごく大事ですけど、それに付随してそういう効果もあるなって、今回そんな感想です。以上です。

(座長)

ありがとうございます。

今回、中央区以外でもこの徘徊模擬訓練を実施した区が新潟市にあったと伺っております。江南区もご経験があるように伺っておりますが、江南区の片山様でしょうか、もし何かご経験等ご紹介いただければと思います。

(江南区健康福祉課片山係長)

江南区の片山と申します。ありがとうございます。

江南区なんですけども、昨年度、それから今年度と2カ年度で実施できております。昨年度につきましては、亀田西小コミ協さんで1回、今年度につきましては、2回目の実施となります。亀田西小コミ協さんが6月に、それから曾野木コミ協さんになりますが、こちらでは10月になりますけども行いまして、合計3回経験をしております。実施した感想としましては、やってよかったという声をいただいております。

(座長)

ありがとうございます。

他の区等でご経験あるところがありましたら、あるいはちょっとやってみたいんだけどちょっとこの辺がまだ苦労しているところがあれば教えていただければと思いますが、ちょっと考えていただく間に、委員の方からも少しこの徘徊模擬訓練あるいは地域での見守りについて、ご意見を伺っていきたいと思います。では、阿部委員いかがでしょうか

(阿部委員)

はい、阿部です。コロナ禍もあったので、非常に私も感動したというか、自治会をどういうふうにして巻き込んでいくか、そういうものはやっぱり非常に重要だと思っています。というのは、私は民生委員としてこの会に出席させてもらっていますけれど、民生委員の仕事の一環として要支援者の見守りみたいなものもあるんですね。そういう時にやっぱり認知症になってきている要支援者が、ここ数年で少しずつ増えていますので、そういうことを考えると民生委員も含め、自治会も含め、地域一帯でこういう取り組みをやっていったら、もっともっといい形になっていくんじゃないのかなと思って拝聴しておりました。以上です。

(座長)

はい。ありがとうございます。

では、荒井委員には、少し新潟市、新潟県の行方不明状況も含めたところの状況も含めて、地域の見守りについてご意見をお聞かせいただければと思います。

(荒井委員)

荒井です。よろしく申し上げます。

(座長)

よろしく申し上げます。

(荒井委員)

行方不明という観点でお話をさせていただきますと、認知症の疑い、あるいは認知症の方の行方不明というのは、県内では昨年 217 名の方が行方不明になったと届け出を受けております。男性が 116 名、女性が 101 名という内訳になっておりまして、若干、男性の方が多という状況にあります。今ほどご説明のあった徘徊模擬訓練については、非常に素晴らしい活動だなと思えました。私らは、早く安全を確保したいというのが第一ですので、警察だけでなく地域の方々の多くの目で見つけて探していただければということが早期発見につながりますし、そして、地域の皆さんが認知症の方の徘徊について関心を持っていただければと思うので、非常にいい活動だなと思えました。以上です。

(座長)

はい、ありがとうございます。

では、次、荒木委員いかがでしょうか。地域包括支援センターでご相談を受けることも多いと思いますけども。

(荒木委員)

はい、荒木です。お世話様でございます。あの本当に徘徊シルバーネットワークということで地域包括支援センターは近くの方だけではなくて、多分市内全域なのかと思うんですが、搜索願が出なさった方に対して通知をいただいているところになります。で、本当にここ最近通知をいただくことが多くなってきておりまして、私どもの近くでも思いもしないような行方不明ということで届けが出なさる方もいらっしゃいまして、私どもの近くだなということがわかりますとお近くのケアマネさん方に、今ちょっと搜索の連絡がきたりしている方がいらっしゃるのので、気をつけてくださいですとか、あとデイサービスさんが送迎に出る時間帯であれば、声をかけさせていただいたり、そんなことは現状でさせていただいてますが、本当に雲を掴むような話の時もありまして。ただ見つかりましたと報告をいただきますとほっといたしております。必ず連絡をいただけるのが、とてもありがたいなと思っております。日々の業務の中からはこんなところなんですけど、本日の報告のこの訓練については、私もテレビで拝見したんですけども、どんなふう自治会の方にお声掛けをされたのかなというのがとても興味深く思っておりました。あとで、自治会さんへのお声掛けのあたりをどのようにご苦労されたのか教えていただければなと思いつつ聞いておりました。はい以上です。

(座長)

はい、ありがとうございます。

ちょうどご質問出ましたので、井上さんにお聞きしてもよいのでしょうかね。自治会へのアプローチ、どの様な感じだったのでしょうか。

(井上さん)

はい、実はこのチームオレンジ in しもまちが活動をしている地区が入船地区というんですけど、この入船地区のコミ協の会長さんがお知り合いの方のお父様でして、だから受けて下さったというわけではないですが、会長さん自身がやはり町中をよく散歩というか、見守り活動をしていらっしゃる方で、みなとトンネルから出たところの公園と呼ぶようなものがあるんですけども、その公園に徘徊行動をされている方をよく見つけるんだそうです。なので、その会長さんが保護した方もたくさんいらっしゃるんで、そういう現状がある。必要なんだっていうことがご会長さんご自身がすごく感じていらっしゃった時に、私達から声をかけてもらって、じゃあやろうかという話になったんです。ただ、その入船地区の役員会に出席させていただいて、こういったことをしたいんだけどもと言う説明をさせていただいた時には、会長さん以外の方から、それってなんのためにやるのかっていうことなどやはり様々なご意見を頂戴いたしました。まずは、よそから来た人を私たちがどうこうするのではなくて、私達の身の回りに住んでいる人たちでそういう徘徊者が出ないように地域づくりを構築していく方が率先してやらなければならないことなんじゃないのというようなご意見をいただいたりしました。

そこから、しもまち地区の徘徊者の数とか、はいかいシルバーSOSに要請される件数とか、そういったお話を役員の皆様にお話にいたりしました。何回も時間をかけました。丁寧に説明することによって、ある日からがらっと様子が変わったんですよ、本当に。なんでこんなにこう変わったかなって発起人たちでもみんな首をかしげるくらい協力的になってくださって、逆に意見を下さるようになったんです。なので、このコミ協の中の町内会長さんが約30人ほどいるんですけど、その人達から全員出席してもらったらいよいよお声がけくださって、その声かけも僕たちがやるからチラシを作ってくれれば、それぞれに声をかけて、町内会長が駄目なんだったら代役を立ててね、くらいに言うからと言ってくださったので、本当に最後は協力的になってくださっていました。民生委員さんをもっと巻き込みたかったんですけど、人数が増えて声かけをストップするくらいになっておりました。以上です。

(座長)

はい、ありがとうございます。荒木委員、何か追加ございますか。

(荒木委員)

ありがとうございました。

やっぱり、私たち自治会さんの役員会に出させていただくって、なかなかいつもってわけにいかないところで、ただ本当に分からないところが私達も多いんですけど、何かのきっかけで足を運ばせていただいている間につながっていくことが本当にあるなっていうのを、私も他の件でも思いつくところがございます、本当、足繁くというのがポイントだなというふうに受け取りま

した。いいお話をありがとうございました。

(座 長)

ありがとうございます。

では近委員、いかがでしょうか。

(近委員)

ありがとうございます。

井上さんの資料の 10 ページに見えてきた課題ということで、目的をはっきりさせるって改めて大事なんだなっていうところをちょっと感じました。さっきの江南区さんの話でも、繰り返しこれからしていくのであれば、例えば今の季節ですと日暮れが速いですから、夕暮れにやるっていうのも 1 つ効果が出ることなのかなって。あと、戸建てのお家じゃなくって、中央区みたいにマンション。巨大集合のマンションのような場面だったらどうするんだろうか。色んな想定できっとそれぞれの地域でこれから始められるといいのかなと感じました。以上です。

(座 長)

はい、ありがとうございます。大変参考になるご意見ありがとうございます。

では、佐野委員いかがでしょうか。

(佐野委員)

佐野です。貴重な映像を見せていただきましてありがとうございました。

認知症の方がですね、確か、認知症高齢者の方が年間、徘徊して亡くなる方が年によって違うと思うんですけど、大体年に 700、800 人位いらっしゃるというデータを見たことがあります。新潟県ですと年間大体 20 人弱の方が亡くなっているというデータを聞いたことがあります。今後やっぱりこういった訓練を通して認知症の方が徘徊していたら、どういう状況で徘徊されているのか、どうやったら見つかるのかって実地訓練というのは非常に大事だと思います。余談になりますが、病院で入院している認知症の方がですね、無断離院というか、病棟からちょっと外に出てしまう時もあるんですね。その時感じるのは、本当の短時間でも本当に遠くに行っちゃうんです。短時間でも。で、あつと言う間に方向も分からず遠くに行かれてしまうってことが、何回か経験があつて。そういった経験からすると、当然、徘徊が分かってから短時間であっても遠くに行ってしまうということと。あと、地域の方によくお願いして、地域の方が徘徊してるような様子の方に早めに気が付いていただくというようなことも大事なのかなと思います。あと、また、ちょっと話は違うんですけど、徘徊して亡くなる方、車の事故を起こす認知症の高齢者とか、あと詐欺に遭っちゃう高齢者の方がいらっしゃいますけど、ほとんどの方が軽度認知症の人が多いですよね。ですから軽度だといっても、色んなことが起こることもありますので、軽度の人の早期発見とか早期治療とか、そういったことも徘徊を防ぐのに大事なのかなというように感じ

ています。以上です。

(座長)

大変ありがとうございます。

では田中委員、よろしくお願いします。

(田中委員)

若年性認知症支援コーディネーターの田中です。

素晴らしい取り組みだなと思いました。若年性の方でも徘徊してしまう方がいるんですけど、やっぱり体が元気な方が多いので、本当に思ったよりすごく遠くに行ってしまうと、ご家族の方、大変な思いをされている方がいらっしゃる。それと見た目もお若くいらしゃって、格好も若いので、見つけるのもきっと大変だと思うんです。こうやって訓練で皆さん、声をかける練習をしておく、皆さん声をかけてみるというハードルが下がって声を掛けやすくなるのかなと感じました。以上です。

(座長)

ありがとうございます。では、等々力委員よろしくお願いします。

(等々力委員)

はい。初めてのこういう取り組み、井上さんすごく試行錯誤しながら、手探りですごくよく頑張っておられるなあと思います。ご苦労様でございます。これは今後、家族の会の方や会員の方にも含めて呼びかけて、応援していきたいと思っています。

見えてきた課題のところ、若年層が参加していないということなんですけども、これについては本当に若い人にも、例えば2025年の問題がありますけど、65歳以上の5人に1人が認知症になるって。私は何か色々な所にいっても中高年の方が認知症のセミナーに参加されることは多いんですけど、若い方の参加少ないんですけど、ただその5人に1人、若い方も必ずこれからの生活に関わってくるということ、あと特に徘徊の問題については尊い命がかかっている。そういうことを若い方に知っていただいて、もっともっと参加していただきたいと思います。それも呼びかけていければなと思うところなんですけども。

あともう1つ、例えば地域の茶の間ですとか、しもまちにも趣味のサークルありますが、そういうところは認知症予防の拠点というか、そういう通いの場があるという、そういう趣味を楽しんだり運動をしたりというところへ、認知症予防になるんですけど、それは若い方から保険料をもらって財政難を背景に若い方からも保険料を徴収しようという動きがありますけど、そういう保険料を抑えるということで、こういう活動が若い人にも大いに関係してくるわけですね。あと在宅の介護で非常に大変な方を私達家族の会は見ているんですけど、そういう大変な期間を短くしたり、あるいはなくす効果もあるということで、そういったことをですね、若い方にも大

いに関係ある認知症のことについては全体に。そういうことを呼びかけて、今後は若い方にもどんどんそういう活動にも参加していただきたいと思います。以上です。

(座長)

はい、ありがとうございます。

確かに色々な世代が協力して対応する。すごく大事な事だと思います。井上さん、課題で若年層のことを挙げていただいていると思いますけど、次回以降、何かお考えのことって現時点で、もしあればお話いただけますでしょうか。

(井上さん)

実は、先日、某小学校が地域とつながりたいということで、5、6年生の複合クラスになりますが、地域の茶の間をコミュニティハウスで開いたところに参加してきました。そこで、徘徊模擬訓練で小学校と中学校とぜひやりたいんだという話があったんですよというような話を学年主任の先生にお話したら、ぜひ我が小学校で来年やってみたいというお話を頂戴しました。なので、本当に実現できるかどうかは分からないんですけど、色々な人の声を小学校、中学校に届ける役目も私の役割ととらえておまして、このような感じで実際につなげていけたらいいなと思っております。

(座長)

はい、ありがとうございます。

もう既にたくさんのことやっていた上でさらにというところもありますが、地域というのは子どもから大人、高齢者までいるというのが、本来の姿ですので自然な形で各世代が参加できるように進んでいくのが望ましいんだろうなと思っております。

成瀬委員、今までの話を踏まえていかがでしょうか。

(成瀬委員)

そうですね、徘徊模擬訓練、色々な所でやっていて、有効だなんていうのは感じてはしましたが、今回は実際この中央区でもできて実際やってみると、やはり思わぬところで声かけの仕方とかですね、そういうこと、実際もやっぱり役割とかしっかり組んでやっていますが、なかなか難しいということもあったりして。それこそもうちょっと、先進地の大牟田市なんかになると、本当に誰がそういう役か分からないみたいな感じでやっているとありますが、子どもさんも全部参加してやっているとあります。徐々にそのような形に世帯も広げていって、やり方もより自然に近いやり方に変えていきながら、やっていければいいかなと思いますね。

あとやっぱり、今回のところをコーディネーターとして是非、他の所に広めていくことも大事だと思いますので、今、多分マニュアルとか作っていると思いますけれども、そういうのを他の地域で広めていくといいのかなと考えています。以上です。

(座 長)

ありがとうございます。

まさしく、今回井上さんがかなり頑張っていたというかですね、イニシアティブをとって地域を動かしてくださったというところがあると思います。そういう方が地域におられると、やはり物事が進みやすい状況にはなるのかなというところはその通りかなと思いました。

今後の課題としては現在中央区、それから江南区、今日はご欠席ですけど東区でも模擬訓練をされておられるというところで、これはなるべく広めていければというところはあるように思います。今日、ご参加いただいている各区の方々のお力を借りながら、これを広めていければなどというように思っているところがございますが、何かその点に関してご意見とかコメントございませんでしょうか。新潟市で広がっていく中で、新潟市がこういうことに関して、どのように関わっていくかということも、将来的には出てくるかなと思っているところですが、新潟市事務局側に伺って申し訳ないですけども、今回のお話をあるいはこの模擬訓練を踏まえて今後の展望みたいなものがもし現時点であれば、少しお話いただけますでしょうか。

(事務局)

小柳です。井上さん発表ありがとうございました。

委員の皆様からのご意見などもいただいて、展望ではないのですが、発表にもありましたけど、今回、井上さんが中央区に初めての実施をしてくださいましたが、地域の方に同じ気持ちになっていただくということで、何度も足を運びとても苦勞をされたているということは聞いていたんですね。やっぱり何回も足繁く説明するというところとか、若い人に広げたいというところでは、この徘徊模擬訓練だけの動きではなくて、小学校など色々な色んなところに認知症サポーター養成講座をやったりとかの動きの中で関係性ができて、それが少しずつ花開いて実現するというか。小学校などからこういう訓練に参加したいなんていうことも聞いておりますので、目的をしっかり理解してもらうこと大事なんですけども、ネットワーク作りというところが大切かと。こういったことは行政側の思いだけでできるものではなくて、地域の方の思いであるとかいうところも非常に大切だと思いますので、そこをかなり拾い上げてくださったなと思っていますので、コーディネーターの活動をこれからどうしていくかっていうところもありますけど、ネットワーク作りというところと若い世代も巻き込むという視点を持って色々な活動をしていくというところで、新潟市のこちらの方としても、何か行政としても関わるところがあれば関わっていきななど。区役所の皆さん含めてになりますが、そのように思っております。

(座 長)

ご意見ありがとうございます。

(高橋課長)

井上さんにお聞きしたいんですけども、課題の中で、予算をどのように取っていくかということで、今回は自治協から出てきたものがあったんですけども、予算的にはどんな費用が必要になってくるのかということをお教えしてもらいたいのですが。

(座長)

はい、どうぞ。

井上さん、分かる範囲でお答えいただけますでしょうか。

(井上さん)

先ほど10万円の使い道ということで内訳はお話させていただいたんですけども、あとは今回東区からビブスを借りたんですけど、そのビブスについても中央区で一式あったらいいなと思いますし、そのビブスのクリーニング代というのも、障がいの施設さんの方でご厚意で5000円で何枚でもいいよと言ってくださったんです、今回。なので、実はクリーニング代などもっとかかる予定だったので、皆様のご厚意などもあり今回は10万円以内で収まっているところとさせていただければと思います。

(課長)

ビブスですか、のぼり旗とか、そういった用具とかそういったもので。それは1回揃えてしまえば使い回しはできますよね。

(井上さん)

そうですね。あとは足繁く通って説明するための資料の印刷代って、実はバカにならないものではありませんし。あとはミーティングを重ねるための場所代、お借りする代金というも塵も積もればの話になってくるので、やはりこういった事業に関しては安い金額であっても、それをどこから捻出するかっていうことにすごく頭を悩ませました。

(高橋課長)

ありがとうございました。

(座長)

はい、ありがとうございます。

様々なご意見をいただき、この活動の重要性を認識できたところかなと思います。

いかがでしょうか、あと何かご意見、コメントありましたらお受けできるかと思いますが、大丈夫でしょうか。ありがとうございました。

それでは、議事の(3)新潟市第8期地域包括ケア計画における認知症施策の実施報告及び新潟市認知症初期集中支援推進事業について事務局からご説明お願いいたします。

(事務局)

事務局から説明させていただきます。

まず、新潟市の第8期地域包括ケア計画における認知症施策の実施報告につきましては、お配りした資料2になります。お配りしました資料は、令和3年度の実績値を入れたものになっております。昨年度末のこの会議におきまして、2月末現在のものをお配りしておりますので、その中身について説明済みですので、この度は資料配布のみとさせていただきます。

次に新潟市認知症初期集中支援推進事業につきましては、お配りしました資料3になります。こちらにつきましても、今ほどの資料2同様ですが、令和3年度の実績値を入れたものになっておりますので、説明は省かせていただきますが、この事業につきましては、前回の会議において初期集中支援推進事業の活性化に向けた取り組みを今後どうしていくかというところで、当課の方で今年度の取り組みやスケジュールをお示しいたしましたが、相談を受けてからの初動を早めることでありますとか、チーム間における定例の情報交換会、外部講師の方を呼んでの研修会の開催、また、なかなか事業理解が進まないというところでチームと地域包括支援センターと意見交換をするということを計画として挙げまして、これについても予定通り進めているところでありますので、取組み結果につきましては、次回の会議で詳細については報告をさせていただきたいと思っております。簡単ではありますが、以上になります。

(座長)

ありがとうございました。

ただいまの報告について、何かご質問ご意見ありますでしょうか。

次回の会議で議論をさせていただくところですが、近委員から手が挙がってますのでどうぞ。

(近委員)

ありがとうございます。

資料の2の5ページ、番号が20番、下から2つ目です。認知症サポーターステップアップ講座の受講者数がちょっと少ないと思ったことと、それから実施状況のところでは同意を得られた受講者は各地域包括支援センターに情報提供とあるんですが、私、キャラバン・メイトとしてましてメイト連絡会には登録しているのですが、これは登録先に聞けばいいんでしょうけど、地域包括支援センターにメイトさんの情報が届いているのかなと、この2つでした。ちょっと参加者があまりいなかったなど、原因は何かという原因ですね。何か検討されたのかというところと、それからメイトの情報が各地域包括支援センターに届いているのかという、この2つになります。お願いします。

(座長)

はい、ありがとうございます。

事務局、いかがでしょうか。

(事務局・小川)

地域包括ケア推進課の小川から回答させていただきます。

近さん、いつもお世話になっております。ご質問ありがとうございます。

まず1つ目のご意見なんですけども、講座の受講人数が伸び悩んでいるのではないかということなんですけども、開催時期が冬ということがありまして、私達の方で原因を探ったんですけど、冬に時季で対面で行っているというところで、コロナの感染状況もこの時増えていた時なので、時期的に芳しくなかったかなというところで原因を考えております。ですので、今年度はそれを外して開催をというところでいっています。

2つ目の地域包括支援センターに情報提供ということなんですけど、それに関してはステップアップ講座を受講された方なのでメイトの情報とは異なった内容話を記載しています。メイトに関しては、また別で同意を得られた方に関しては包括の方に情報提供はしていないんですけど、先ほど井上さんからご説明があったようなメイト連絡会の方から情報が行っている、その中で同意があった方はメイトの方の情報が行っている場合はということはあるんですけど、うちの方からはしていない状況です。以上になります。

(近委員)

ありがとうございました。

(座長)

はい、ほかに何かありませんでしょうか。

よろしければ本日の議事はこれで終了になりますので、進行を事務局にお戻しいたします。

(事務局)

池内先生、今日はありがとうございました。

皆様、本日は大変お疲れのところ、会議にご参加いただきましてありがとうございました。本日の議事録及び会議の資料につきましては、後日新潟市ホームページに掲載されます。次回、第2回新潟市認知症対策地域連携推進会議につきましては、年度末を予定しておりますが、近くなりましたら、また日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、ご協力よろしく願いいたします。

以上を持ちまして、令和4年度第1回新潟市認知症対策地域連携推進会議を終了いたします。

どうもありがとうございました。